

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和5年3月

新潟医療福祉大学

目次

I.	教職課程の現状及び特色	1
II.	基準領域ごとの自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	8
III.	今後の教職課程教育・運営の課題	11
IV.	現状基礎データ表	12

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

- (1) 大学名：新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科
健康科学部健康スポーツ学科
看護学部看護学科

- (2) 所在地：新潟県新潟市島見町 1398

- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科 167名／大学全体4,641名
健康科学部健康スポーツ学科 947名／大学全体4,641名
看護学部看護学科 443名／大学全体4,641名

教員数：教職課程科目（教職・教科とも）

新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科 19名／大学全体356名
健康科学部健康スポーツ学科 46名／大学全体356名
看護学部看護学科 37名／大学全体356名

2 特色

新潟医療福祉大学は、保健・医療・福祉・スポーツに関わる専門職を養成する大学であり、「優れた QOL サポーターとしての教師」を教員養成理念として掲げている。健康科学部健康栄養学科は、対象者の健康づくりに貢献できる栄養教諭の養成を、健康科学部健康スポーツ学科は、健康・スポーツに関する専門的知識・技能を有する保健体育教師の養成を、看護学部看護学科は、看護の専門性を身につけた養護教諭の養成を行っている。教職志望の学生が十分な学修機会を得て希望する進路に進むことができるよう、教職支援センター及び教職支援センター運営委員会は、各学科と緊密に連携し、教員養成教育を力強く展開する。

II 基準領域ごとの自己点検評価

1 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標

①状況説明

新潟医療福祉大学の教員養成理念は「優れた QOL サポーターとしての教師」である。また本学の基本理念「優れた QOL サポーターを育成する大学」に即し、求められる資質・能力として、7つの指針と5つの項目を挙げている（2019年4月1日策定）。

➤ 7つの指針

- I 児童生徒の人格形成に関する豊かな教養や人間性
- II 児童生徒・保護者・地域住民の気持ちに寄り添う豊かな感性
- III 専門領域に精通した高度な知識・技能
- IV 社会の中で自己の可能性を実現する力
- V 学校教育の場で求められるチームワークを発揮する力
- VI やる気を引き出すコミュニケーション能力
- VII 教職に対する使命感と最後まで責任を持って職務を遂行できる問題解決力

➤ 5つの項目

✓ Science & Art（科学知識と技術を活用する力）

教職に関する教養を有し、専門分野に関する高度で科学的な専門知識と技術を教育指導の場面において活用できる。

✓ Teamwork & Leadership（チームワークとリーダーシップ）

児童生徒・保護者・地域住民の気持ちに寄り添う豊かな感性を有するとともに、校内連携において求められるチームワークを発揮することができる。

✓ Empowerment（対象者を支援する力）

児童生徒の人間形成に関する豊かな教養や人間性及びコミュニケーション能力を有し、児童生徒の学びについて適切に導くことができる。

✓ Problem-solving（問題を解決する力）

教職に対する使命感と最後まで職務を遂行しようとする責任感を有し、児童生徒に関わる諸問題を解決しようとする。

✓ Self-realization（自己実現意欲）

教職と専門分野に関する課題に広く関心をもち、自己の可能性を実現するために、主体的、意欲的に研修できる。

健康科学部健康栄養学科では、『栄養に関する高度の専門性』と『教育に関する資質』を併せ持ち、児童生徒、保護者及び地域社会の健康づくりに貢献できる栄養教諭」を養成している。また、そのために求められる資質・能力として、「Ⅰ 児童生徒、保護者、地域社会の実態や課題を把握し、学校給食の提供、食に関する指導および栄養管理を一体的に行う力、Ⅱ 自らの手で科学的エビデンスを構築し、エビデンスに基づいた活動を展開する力、Ⅲ 保護者、教員、地域社会と連携できる力、Ⅳ 栄養教諭としての誇りと自覚、倫理観、Ⅴ 児童生徒、保護者および他職種から信頼される人間性や社会性」の5つの指針を挙げている。

健康科学部健康スポーツ学科では、「健康・スポーツに関する専門的知識・技能（健康増進、傷害対応などの知識・技能を含む）を有し、児童生徒の人格形成と生涯にわたるQOLの向上に資することができる、豊かな教養と責任感を兼ね備えた保健体育教師」を養成している。また、そのために求められる資質・能力として、「Ⅰ 健康・スポーツに関する専門的知識・技能、Ⅱ 専門的知識・技能を効果的に身に付けさせる指導力、Ⅲ 保健体育教師としての誇りと使命感、Ⅳ フォア・ザ・チーム（連携・協働）の精神」の4つの指針を挙げている。

看護学部看護学科では、「本学教員養成の理念と指針を基盤とし、教育職であり看護職であるという特性を生かした『看護の専門性』を身につけた養護教諭」を養成している。また、そのために求められる資質・能力として、「Ⅰ 子どもたちの疾病管理、救急処置など、健康と命にかかわる看護能力、Ⅱ ヘルスプロモーションの理念に基づき、子どもたちのセルフケア能力を育成するための健康支援活動を実践できる能力、Ⅲ 養護教諭として、中核的な役割を担うことができる総合的な人間力、Ⅳ 養護教諭に必要な倫理的態度、Ⅴ 根拠に基づいた研究的態度」の5つの指針を挙げている。

②長所・特徴

現代の学校教育には、児童生徒の主体性や学習意欲の欠如、体力・運動能力の低下傾向、食生活や食習慣の乱れからくる健康への影響、さらにはいじめや不登校など、さまざまな問題が山積していると言われている。また、指導力の不足や、児童生徒のみならず教職員や保護者、地域住民とのコミュニケーションがうまくとれないといった教師自身の問題も指摘されている。新潟医療福祉大学が定める教員養成理念、7つの指針及び5つの項目は、養成している職種・校種・教科等の専門性に鑑みて、これらの課題に答え得る内容だといえる。

健康科学部健康栄養学科は、あらゆるフィールドで活躍する管理栄養士を育成することを中心的な目標に掲げている。その一つとしての学校教育のフィールドでは、管理栄養士の資質・能力を基盤に教諭としての資質・能力を身に付けることで学校給食の提供と食に関する指導を一体的に行うことのできる栄養教諭像を掲げる。

健康科学部健康スポーツ学科は、健康医科学、コーチング科学、スポーツマネジメント、スポーツ教育といった健康・スポーツに関連する幅広い科目を配置しており、希望する将来像に合わせて自由に科目を選択できる。また、特徴的な実習科目および演習科目も整備して

いる。これらのカリキュラムによって7つの指針と5つの項目を実現し、「優れた QOL サポーターとして教師」を育成することに努めている。

看護学部看護学科は、複雑化・多様化する児童生徒の健康課題解決を目指し、看護と養護・学校保健の側面から心身両面からアプローチし、適切に判断できる力の育成に重点を置いている。また、健康相談や救急処置等の演習や事例検討におけるペア・グループワークやディスカッションを用いながら実践力を高める工夫をしている。

<根拠となる資料・データ等>

1-1-1 新潟医療福祉大学 全学 教員養成の理念

(2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

①状況説明

新潟医療福祉大学は、文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程科目を担当するために十分な教育研究業績を有する研究家教員及び教育行政機関や学校等において豊かな実務経験を有する実務家教員を、各学科に適正に配置している。また、教職課程を有する各学科と事務局学務部が連携し、個々の学生の状況に対応する学修支援体制を整備し、適切に教職課程を運営している。

責任ある教職指導のための組織的な取り組みとして、全学組織として教職支援センターを設置し、センター及び教職課程運営のために教職支援センター運営委員会を組織している。教育・学生支援機構における学生支援推進部に所属する教職支援センター運営委員会は、本学の教職課程及び教員養成に関わる業務を充実させるとともに、教職支援センターを円滑に運営することを目的として、三つの専門部会（養成部会、採用・研修部会、企画・研究部会）を設置し、必要な事項の調査・審議を行っている。

教職支援センター運営委員会は、センター長、副センター長、教職に関する科目担当教員から選出された教員、教職課程を有する当該学科より選出された教員、学習相談及び指導を担当する教職員、事務職員、その他委員会が必要と認めた教職員を構成員としている。必要に応じて他の委員会や事務局学務部と連携して対応する構えを取りながら、教職課程の適正な運営を期すと同時に、各学科における教職課程の位置づけに留意し、ディプロマ・ポリシー及び教員養成理念に基づく人材育成・教員養成を推進する体制を構築している。教育実習を含む学外実習や教職ボランティアなど、理論と実践の往還を必要とする実習系科目の運営にあたっては、専門部会である養成部会が中心となり、実習教育体制の連携・充実や、教育委員会等連絡先との調整を一体的に管理している。

教職課程教育を行う上での主たる施設・設備として、講義室、各学科の実習・演習室、体育館、多目的運動場、図書館をキャンパスに設置している。原則としてすべての講義室にプロジェクトタヤスクリーンが配備されており、教職課程の各授業等を効果的・効率的に展開で

きる体制が整っている。図書館には、約 130,000 冊の書籍と約 1,400 種の保健・医療・福祉・スポーツ分野学術雑誌などが所蔵され閲覧に供されているほか、外部データベースや全国図書館の複写サービスも利用可能であり、教職課程科目の学修に十分な資料が準備されている。ラーニングコモンズや自習コーナー、インターネット接続コーナー、AV コーナーなどが備えられており、ネットワークステーションとしても利用可能である。また新潟医療福祉大学では、学生及び教職員に対し大学発行のメールアドレス及びマイクロソフト社「Office 365」のアカウントを発行し、キャンパス内には無線 LAN やコピー機も配備している。またメディア授業等で活用するために、マイクロソフト社「Teams」や e ラーニングシステム「e-campus」を準備し、授業における情報通信技術の活用基盤を整備している。

教職支援センターには、デジタル教材を含む教職関連図書・資料 300 点余りが配架され、プリンターやコピー機も利用可能な資料閲覧・自学自習スペース、録画カメラ・モニタや大型教具が配備され、仮想教室空間でもある模擬授業スペースが完備されているほか、学生用 PC や iPad 等の ICT 関連の施設・機材も整備されている。教職支援センターの具体的な業務としては、教職に関する履修相談、教育実習に関する手続き、教員採用試験に関する相談、教員採用試験対策講座、教員採用試験模擬試験などを挙げるができる。

②長所・特色

新潟医療福祉大学は、保健・医療・福祉・スポーツの総合大学であり、教員養成に特化した大学ではない。この前提を踏まえ、教職課程に係る情報を一元的に管理し、学内外の状況や要望に適切に対応するとともに、効果的・効率的な学生支援を行うために、全学組織として教職支援センター及び教職支援センター運営委員会を設置している。

教職支援センター運営委員会は、本学の教職課程及び教員養成に関わる業務を充実させ、教職志望学生に対する支援を円滑に推進するとともに、その指導及び学習環境の充実に寄与することを目的としている。様々な業務を各学科の教職課程と連携・協働しながら対応しているが、自己点検・自己評価活動については、委員会の専門部会である企画・研究部会が担当し、作業の取りまとめとともに、各学科の点検・評価活動に対し、助言及び援助をしている。活動の性質を考慮すれば、各学科の状況を俯瞰的に捉えることができる専門部会が主導するこの体制は妥当だと考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-1 新潟医療福祉大学教職支援センター規程
- 1-2-2 新潟医療福祉大学ウェブサイト「組織図」
<https://www.nuhw.ac.jp/about/organization.html>
- 1-2-3 新潟医療福祉大学ウェブサイト「A 図書館棟」
https://www.nuhw.ac.jp/about/map/map_a.html
- 1-2-4 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」

https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

1-2-5 新潟医療福祉大学教職支援センター年報 第5号 [2020年度版]

2 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保

①状況説明

全学及び各学科において、大学の教育理念である「優れた QOL サポーターの育成」に即したアドミッション・ポリシーが設定されている。これらのアドミッション・ポリシーは、ホームページに掲載されているだけでなく、『大学案内』『入試ガイド』『学生募集要項』等の印刷媒体及び高校教諭を対象とした入試説明会、オープンキャンパス等を通じて、優れた QOL サポーターに求められる資質・能力として公開されている。

入試においては、学科ごとに評価指標を定めて入学者選抜の公平性を担保するとともに、多様な人材確保のために8種類の選抜区分を設定している。原則として、総合型選抜や学校推薦型選抜では本人の特性を生かした能力を、一般選抜や大学入学共通テスト利用選抜では高等学校卒業相当の基礎学力を測定している。また、総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者に対しては、オンライン教材を活用した入学前教育を展開し、学修意欲を維持・向上し、大学教育に円滑に接続できるよう企図している。

健康科学部健康栄養学科は、本大学のホームページにおいて目標とする資格の一つとして栄養教諭を掲げ、免許取得要件、職務内容の概要を示しており、履修希望の有無はある程度明確になっている。入学後の学科新入生オリエンテーションにおいて教職課程(栄養教諭コース)に関する説明を行い、履修希望者を確定している。

健康科学部健康スポーツ学科は、大学ホームページと連動した学科ブログ、各種 SNS (Twitter, Instagram), Voicy や YouTube などの媒体を通じて教員の研究成果、学生の各種活動、学科の様子などを発信している。このことで、在学生、高校生、関係者が健康スポーツ学科で行われている研究や各種活動への興味・関心を高めて、教職を目指す学生や本学科を志望する高校生の確保に努めている。教職を志望する学生に対して、教職オリエンテーションを毎年開催し、各学年で必要な学修および実習の指導に当たっている。

看護学部看護学科は、毎年度行う各学年への教職オリエンテーションにおいて、本学科の教員養成理念や看護教諭の職務の魅力・求められる力等を伝えている。新入生に対しては、全員へのオリエンテーション他に、教職希望者に教職課程の詳細を説明し教職課程をスタートしている。学年ごとや個別に声かけや支援を等しながら意欲の維持・向上に努めている。

②長所・特色

健康科学部健康栄養学科では、管理栄養士の資格取得のための科目履修と並行して1年次から教職の基礎的な理解に関する科目の履修が始まる。その過程で進路が熟考され、2年次の終わりまでに免許取得のみを目指す学生と教職志望が高い学生とに分かれるが、3年次から始まる栄養教諭の専門科目では、教職を担う者としての質の担保については同等の指導を行っている。

健康科学部健康スポーツ学科では、学生が「優れた QOL サポーターとして教師」を目指し、教職ポートフォリオで毎年の目標設定と振り返り、教職に関わるすべての授業科目で学んだことと課題の記録、ボランティア活動の記録などを行っている。これらを担当教員が確認してフィードバックすることで教職課程履修の進捗状況を共有している。

看護学部看護学科は、教育実習履修者の定員を10名とし、3年次に選考試験を実施している。学生自身も改めて教職に対するモチベーションを高め、進路について再考する機会となっている。また、少人数制であることを生かし、「教職ポートフォリオ」を活用しながら個別面談を実施し、適性や学習状況、目標、進路希望等の把握をしながら個に合わせた支援に努めている。

<根拠となる資料・データ等>

2-1-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「アドミッション・ポリシー」

<https://www.nuhw.ac.jp/applicant/admissions/ap.html>

(2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

①状況説明

教職へのキャリア支援は、教職支援センターが中核となり、各学科教職課程、事務局キャリア開発室（就職センター）と連携しながら進めている。教職へのキャリア支援として、教職に関する履修相談、人物評価試験対策指導を含む教員採用試験対策講座、教員採用試験模擬試験などを通年で行っている。これらの業務は教職支援センター運営委員会の専門部会である採用・研修部会が主管しており、実際の指導は教職支援センター非常勤講師や各学科の実務家教員が中心となり実施している。

健康科学部健康栄養学科では、教職担当教員が中心となり教職に関する履修相談、人物試験対策指導を含む教員採用試験対策講座を、3年生を中心に後期から教員採用試験期間まで実施している。

健康科学部健康スポーツ学科は、学内講座として論作文演習、面接演習、教育課題演習、直前総合演習、などを開講し、採用試験対策はもとより、教師としての力量の形成を支援している。また、学生の表現力を高めるため、教員採用試験の出願書類の添削を行っており、多くの学生が利用している。

看護学部看護学科は、教職支援センターとの連携を強化しつつ、学科で実務家教員による教員採用試験対策を実施している。専門科目を中心とした講座の他、人物試験対策、実技試験対策を行っている。在学生・既卒生に対応し、学生の教職への夢の実現を支援している。

②長所・特色

健康科学部健康栄養学科は、教員採用試験に特化した講座として、専門教養を中心に「食に関する指導の手引」などにあたり基礎的・基本的な知識を整理し過去問を解いたり、主に面接場面を想定した模擬授業や場面指導なども適宜加えたりしながら、総合的・実践的な演習形式の活動を通して教員採用試験に向けた力量を高めることを目的として行っている。

健康科学部健康スポーツ学科は、教職支援センター講師と学科教職担当教員が協同で指導に当たっている。現職学校教員の経験が豊富な実務家教員と教職教養や専門教養に関わる専門性の高い研究者教員が在籍しており、それぞれがペアになって学生指導に当たったり、オムニバス形式で授業や演習を担当したりしている。

看護学部看護学科は、教員採用試験対策の他、公開模擬授業や実習報告会への低学年の参加等を行い、異学年交流を図っている。これをきっかけとして、情報共有や相談の場も設定するようにしている。特に2、3年生で看護と教職の学習の両立への不安を挙げる学生は多く、先輩や周囲の体験や対処方法などを聴くことで具体的なイメージや目標を持って臨む様子がみられている。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「教職支援センター」(1-2-4再掲)
https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

3 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

①状況説明

各学科において、教職課程コアカリキュラムに対応した、保健・医療・福祉・スポーツの専門職業人養成に繋がるカリキュラムを編成している。指導法を中心とした講義系の科目において、ペア・ワークやグループ・ディスカッション、模擬授業等を盛り込んだ授業展開を取り入れ、コミュニケーション能力の育成を図っている。また教職志望度が高い学生を対象とした演習系・実技系の科目を複数配当したり、観察参加型の実習を低学年次に設定したりするなどして、教職指導の質・量の充実に努めている。さらに全学で推進する連携教育を教職課程教育にも取り入れており、4年次後期の「教職実践演習」においては、3学科連携の演習を実施している。

健康科学部健康栄養学科は、「栄養に関する高度な専門性」と「教育に関する資質」を併せ持ち、児童生徒、保護者および地域社会の健康づくりに貢献できる栄養教諭の養成を目的としたカリキュラムを編成している。3年次は講義を中心とし栄養教諭の職務に関する理解を深める科目と演習を通じて食に関する指導法を習得する科目とで構成している。

健康科学部健康スポーツ学科は、教科及び教科に指導法に関する科目、大学が独自に設定する科目においても健康・スポーツに関連する幅広い科目を開講している。教員免許を取得するための単位に加えて、学科独自の教職必修を設定することで、健康・スポーツに関する力量を幅広く身に付けることができるカリキュラムとなっている。

看護学部看護学科は、学科教員養成理念に基づき、各科目において看護、養護・学校保健の視点を備えた信頼される養護教諭の育成を目指している。教職課程科目と学科科目の関連性や系統性を踏まえ、学年ごとに段階的に学べるよう工夫している。

②長所・特色

健康科学部健康栄養学科は、3年次の学びを踏まえ、4年次の栄養教育実習で学校現場での2週間の実践に臨んでいる。最終科目の教職実践演習では、教育実習における実践について、改めて管理栄養士視点からの振り返りを行う。各自の指導案等を支えるエビデンスを確認すると共に指導方法の在り方について協議し、専門性に関する質の向上を目指している。

健康科学部健康スポーツ学科は、体育実技の授業科目において、学習指導要領保健体育編の各領域で例示されている種目を設定しており、学生の指導力の向上に努めている。さらに、大学が独自に設定する科目では、各種目の指導実習を配置しており、継続的な指導の経験を通して専門科目の指導力を高めることができるようにしている。

看護学部看護学科は、養護教諭の職務の特性から専門性を高める学びと同時に、自ら連携を構築する力を養うことを意図している。ペア・グループ学習や場面指導演習、事例検討などをできるだけ多く設定し、体験的に具体的に学ぶ工夫をしている。また、各種実習やボランティア経験をシェアする等、実践場面の経験の共有を図りながら進めている。

<根拠となる資料・データ等>

3-1-1 新潟医療福祉大学教職支援センター年報 第6号〔2021年度版〕

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

①状況説明

実践的指導力を養成するために、低学年次からボランティア等で学校現場に触れることを推奨している。また、新潟医療福祉大学と新潟市北区との間に包括連携協定が結ばれているため、教職課程においても、北区内の小学校・中学校にて各種実習が行われたり、教職ボランティア活動が展開されたりするなど、交流の機会が多くなっている。

健康科学部健康栄養学科では、学校現場に触れる活動として3年次後期の給食経営管理実習を位置付けている。教職課程を履修する学生は、本実習において学校での実習となるよう実習場所を調整することで現場体験を実現させている。

健康科学部健康スポーツ学科は、大学の所在地である新潟市北区内の小学校・中学校あるいは学生の出身地の小学校・中学校での教職ボランティアを推奨し、毎年数名の学生が実際にボランティア活動に取り組んでいる。ボランティアの内容も学習支援、部活動支援、学校行事など多岐にわたっており、実践的指導力の向上を図っている。

看護学部看護学科は、低学年からの学校ボランティア参加を勧めている。ボランティア校については、教職支援センター運営委員の担当教員により個別にマッチングしていただくことで、学生は安心感を得てボランティア参加へ意欲が高められている。

②長所・特色

健康科学部健康栄養学科は、1年次から管理栄養士に関する実習を行うため、教職のボランティア活動に取り組むことができるのは教育実習後さらには教員採用試験後となるのが現実であるが、ゼミの活動として北区内の小中学校に出向き、お弁当の日のサポートを行うなどの活動を通して交流の機会を作るようにしている。

健康科学部健康スポーツ学科は、学科開設以来、地域の学校でのボランティア活動を継続的に行ってきた。特に水泳、器械運動、ダンスなどの体育授業補助が中心であったが、近年では体育に限らない学習支援も多くなっている。ボランティア活動の体験によって、指導力の向上に加えて、教職の志望度を高めることにもつながっている。

看護学部看護学科は、新潟市内小学校より観察参加実習・教育実習を受け入れていただき、実施している。継続的な学校ボランティアへの参加や各種実習から養護教諭の職務について具体的かつ実践的な学びを深め、教職への意欲を高める機会となっている。実習の学びは報告発表会で共有している。

<根拠となる資料・データ等>

3-2-1 新潟医療福祉大学ウェブサイト「地域連携（貢献）活動」

<https://www.nuhw.ac.jp/community/contribution/>

Ⅲ 今後の教職課程教育・運営の課題

新潟医療福祉大学における教職課程教育・運営の全学的な課題として、以下 3 点があげられる。

1 点目は、教職課程に係る FD・SD 活動が低調なことである。大学全体の FD・SD 活動は活発に行われているものの、教職課程教育や教職課程運営に焦点化した FD・SD 活動は、有志教員により一部実施されているのみで、組織として十分に展開されていない。また、授業評価アンケートや教職課程アンケートなどは定期的に行われているが、収集した学生の「声」を適切に反映するための動きは限定的である。教職課程の在り方を顧みてより良い状況にするためには、教職課程に特化した定期的な FD・SD 活動が必要だと考えられる。

2 点目は、学校現場に触れる機会が限られたカリキュラムとなっていることである。実践的指導力を養成するためには、学生生活の早期から（可能であれば長期的に）学校現場に関わることが必要不可欠である。しかしながら新潟医療福祉大学においては、学科の専門教育や履修者数との兼ね合いにより、実習もしくは実習に準ずる機会を教職課程カリキュラムの中で十分に提供することができていない。カリキュラムの改訂が難しい現状においては、教職ボランティアの対象や期間をより一層拡充することで、これに代替することが求められるだろう。

3 点目は、既卒生への支援や働きかけが薄いことである。新潟医療福祉大学の教職課程では現在、既卒生への支援として、メーリングリストを通じて講師情報の提供や学内講座の開講案内などを行っているが、支援の内容・頻度ともに十分とはいえない状況である。「教師は学校で育つ」ものであるが、既卒生に対し実質的・効果的な支援を展開することは、教職課程を有する大学としての責務でもある。既卒生支援の在り方を今一度見直し、新たな展開を図ることは、新潟医療福祉大学教職課程における重要課題の一つだと言える。

現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者 学校法人 新潟総合学園	
大学・学部名称 新潟医療福祉大学	
学科やコースの名称（必要な場合） 健康科学部健康栄養学科・健康科学部健康スポーツ学科・看護学部看護学科	
1 卒業生数、教員免許取得者数、教員採用者数等	
① 昨年度卒業生数	健康科学部健康栄養学科 41名 健康科学部健康スポーツ学科 202名 看護学部看護学科 105名 計 348名
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	健康科学部健康栄養学科 36名 健康科学部健康スポーツ学科 174名 看護学部看護学科 100名 計 310名
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 （複数免許取得者も1と数える）	健康科学部健康栄養学科 2名 健康科学部健康スポーツ学科 82名 看護学部看護学科 3名 計 87名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	健康科学部健康栄養学科 2名 健康科学部健康スポーツ学科 20名 看護学部看護学科 3名 計 25名
④のうち、正規採用者数	健康科学部健康栄養学科 1名 健康科学部健康スポーツ学科 7名 看護学部看護学科 1名 計 9名
④のうち、臨時的任用者数	健康科学部健康栄養学科 1名 健康科学部健康スポーツ学科 13名 看護学部看護学科 2名 計 16名

2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (助手)
教 員 数	健康科学部	健康科学部	健康科学部	健康科学部	健康科学部
	健康栄養学科	健康栄養学科	健康栄養学科	健康栄養学科	健康栄養学科
	5名	4名	5名	4名	1名
	健康科学部	健康科学部	健康科学部	健康科学部	健康科学部
	健康スポーツ学科	健康スポーツ学科	健康スポーツ学科	健康スポーツ学科	健康スポーツ学科
12名	8名	15名	10名	1名	
看護学部看護学科	看護学部看護学科	看護学部看護学科	看護学部看護学科	看護学部看護学科	看護学部看護学科
8名	4名	7名	10名	8名	
計 25名	計 16名	計 27名	計 24名	計 10名	
相談員・支援員など専門職員数 0名					